

【資料】

平成28年度林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会

小野 雅子¹

9月14日、農林水産省講堂において、都県との連携による林木育種の推進を目的として、林野庁、森林総合研究所共催による平成28年度林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会が開催されたので、その概要を報告する。

本育種分科会には林野庁、林木育種センター、関東育種基本区の13都県から合計49名が出席した。また、前日の9月13日には育種分科会現地検討を行い、東京都にて花粉症対策品種で構成されたスギ及びヒノキのミニチュア採種園等の視察が行われた。

林木育種を巡る最近の情勢について

林野庁から、苗木安定供給推進事業、特定母樹の増殖等について説明があった。また、林木育種センターから、花粉症対策品種の開発推進、第4期中長期計画、林木育種のスピードアップに向けた最近の対応、林木育種連携ネットワーク、次期の林木育種推進計画の策定スケジュールについて説明があった。

特定母樹等普及促進会議の概要及び特定母樹の普及について

7月26日から27日にかけて関東育種基本区特定母樹等普及促進会議を長野県佐久市他で開催し、林木育種センター、関東森林管理局、中部森林管理局、群馬県、山梨県、長野県からカラマツの特定母樹等に関する報告、さらには林木育種センター長野増殖保存園のカラマツ特定母樹のつぎ木状況や、中部森林管理局の清万採種園で着花促進となる環状剥皮の状況などの視察を行ったことについて報告があった。また、特定母樹の原種配布の流れと、特定増殖事業者の認定状況等について説明があった。

林木育種事業の推進について

平成28年度に林木育種センターにおいてスギ及びヒ

ノキのエリートツリーの開発を行うこと、また、スギ及びヒノキのエリートツリーのうち指定基準に達すると考えられるものを特定母樹に申請する予定であること等の説明があった。また、昨年度前方選抜により初期成長に優れた第二世代品種を3系統開発したと報告があった。

関東育種基本区では、マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発について、平成28年度は一次検定を茨城県と千葉県で、二次検定を千葉県内で選抜された系統を林木育種センターで実施していると報告があった。

普及に関しては、花粉症対策に全ての都県で取り組んで普及を進めており、また、特定母樹については来年度からカラマツ特定母樹が配布される予定で、スギ・ヒノキのほかカラマツ特定母樹採種園の造成が予定されていると報告があった。

また、福島県からマツノザイセンチュウ抵抗性種苗の品質向上及び生産量増加技術の開発について、また静岡県からは特定母樹の開発予定や採種園の造成について普及に関する取り組み状況が紹介された。

林木遺伝資源の収集・保存についても、林木育種センターと群馬県、千葉県、静岡県で行っている取り組みについてそれぞれ説明があった。

提案要望事項について

関東育種基本区の都県からマツノザイセンチュウ抵抗性マツの取り組みや採種園の管理方法等について要望等があり、林木育種センターから回答があった。

現地検討について

育種分科会現地検討の前日に、現地検討を東京都農林総合研究センターで行った。花粉症対策品種で構成されたスギ及びヒノキミニチュア採種園では種子の生産状況や着花促進としてジベレリンペーストをヒノキの枝に処理する実技、少花粉ヒノキのコンテナ育苗では数種類のコンテナを使用した試験の状況等の視察があった。

¹おのまさこ 森林総合研究所